

精神科患者の口腔ケアについて

一般社団法人安田博愛会安田病院
女子病棟看護師

小島弘子 小池和歌子 坂口まゆ 中村粧子

**日本精神科病院協会
利益相反（COI）開示
筆頭発表者名：小島 弘子**

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある
企業などはありません。



はじめに

精神症状の変化や向精神薬の副作用により、口腔内の乾燥、誤嚥や窒息といった摂食嚥下障害が起こる

長期の向精神薬の服用により、口腔嚥下機能が低下

精神症状の影響により、飲み込みにくいことがあっても異変をスタッフに伝えない

セルフケア能力が低下し口腔内の清潔が保持できず、口腔内の衛生環境や口腔機能低下へ繋がる

口腔ケアの目的

- ①口腔内の清潔を保つ
- ②う歯、歯周病予防
- ③口腔機能継続
- ④誤嚥性肺炎予防

当院の患者は、起床時、各食事後、就寝前に
口腔ケアをしている

昼食前には、座ったままでもでも簡単にできる
パタカラ体操を毎日行っている

(パタカラ体操は誤嚥を防ぐための代表的な訓練方法の一つ)

研究目的

自力での口腔ケアが困難な患者は、食後に口腔ケアを行ってはいるが、歯肉からの出血、口臭がある

長期の向精神薬の服用は、錐体外路症状として嚥下障害を起こし、口腔機能を低下させる

改めて、口腔ケアについて考える

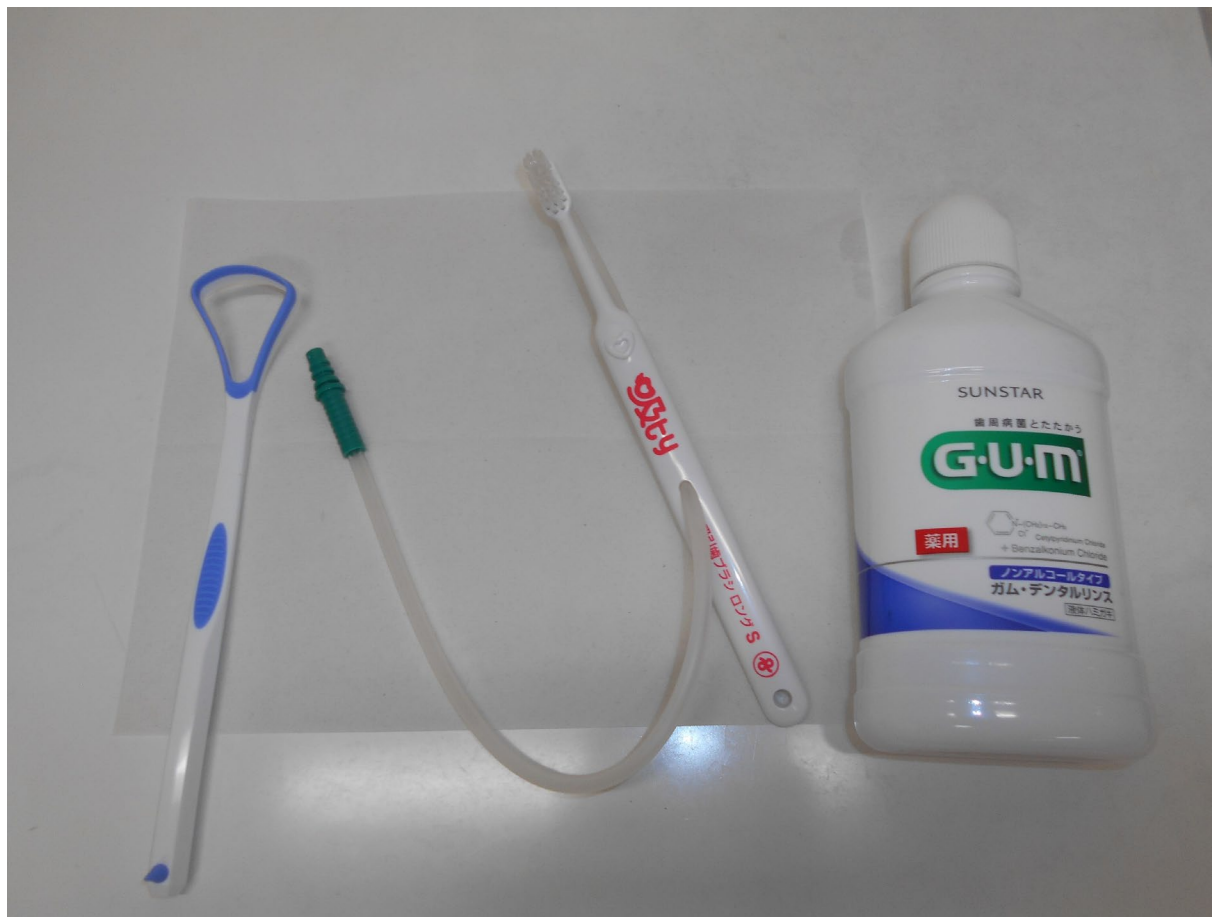
研究方法

研究対象：女子病棟患者 1 名
身体拘束をしており、自力での食事摂取や含嗽が困難

研究期間：R 5 年4月～R5年12月

研究方法：吸引機能付きの歯ブラシの使用
洗口液の使用

倫理的配慮：研究対象者には、研究の目的と個人情報
情報の保護について、研究発表で公表することを説明し、同意を得た



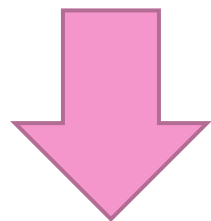


結果

手順

- ①口腔ケア説明後、首元にタオルを掛ける
- ②ギヤッジアップ30度にする
- ③吸引機能付き歯ブラシでブラッシング後、
シリンジで口腔内に水を流して、吸引機能
歯ブラシで水を吸引する

④ 洗口液をガーゼに染み込ませ口腔内に塗布



吸引機能付き歯ブラシと洗口液の使用を
継続したことにより、歯肉からの出血、口
臭が軽減した

結論

洗口液→スポンジブラシやガーゼに含ませて、
粘膜ケア行うことが出来、痂皮除去
にも効果的である

口腔ケア継続には
→患者、スタッフが無理なく、続けられ
る工夫が必要

うがいの出来ない患者

→ 洗口液を湿らせたガーゼで拭き取るだけでも十分であり、バイオフィルムを除去でき誤嚥性肺炎の予防にもなる

口腔ケアの継続

→ 患者自身も習慣となり、拒否的な患者も受け入れやすくなる
口腔内の環境が保持され、QOL向上にも繋がる

引用文献

- ・ 戸原玄 高橋清美(2022)精神科看護における口腔ケア
- ・ 芳村直美(2023)嚥下とポジショニング ナースマガジン vol43 3